

(様式1)

学校名(徳島県立阿南支援学校)
校長(美馬 恒子 印)

平成22年度とくしま特別支援総合サポート充実事業計画書
(支援名：特別支援学校の教員による支援)

1 事業内容

「特別支援学校の教員による支援」

巡回相談員による指導

ア) 指導方法による助言

巡回する園・学校	県南地域の希望する就学前教育機関(3園程度)	県南地域の希望する小学校(2校程度)	津乃峰小学校 (承諾済み)	県南地域の希望する中学校及び高等学校
回数	月3回, 4時間程度	月4回, 4時間程度	月1回, 4時間程度	年間5回程度(随時)
対象とする児童生徒	支援を要する幼児	通常学級在籍の支援を要する児童	通級指導教室在籍児童	支援を要する生徒
支援内容	担任もしくは担当者が支援を要する幼児を対象として行う事例研究をサポートする。 事例研究をとおして問題解決に導く力を養い、指導者のスキルアップを行う。	チャレンジクラブ開設に向けての支援 チャレンジクラブ支援マニュアル及びツールを活用した支援 チャレンジクラブ担当者及び通常学級担任への支援	通級指導教室の運営に関する支援 小集団におけるソーシャルスキルトレーニング等、指導内容における支援 発達検査の解釈及び個別の指導計画作成支援	進路等に関する相談支援, 情報提供 就労に必要な態度やスキルの習得に関する学習支援 児童生徒の個別的な対応に関する支援, 関係機関との連携による支援

イ) 相談支援

要請に応じて、学校等の教員や保護者に対して、出張相談・来校相談・電話相談等に応じる。

ウ) 研修支援

県南地域の学校等における校内研修会等への講師派遣をする。

2 本校におけるサポートの特色

本校が目指す特別支援学校としてのセンター的機能は、地域の小・中学校等が、自校に在籍する特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒への支援を自ら考え支援できる校内体制を確立できるようサポートすることである。そのために昨年度は、地域の保・幼・小学校の4カ所での事例研究とクラブ活動における支援及び指導マニュアル等の作成を行った。この2つの取り組みは、地域の小・中学校等が、特別な支援の必要な幼児児童生徒の支援を自ら考え、支援できるようになるための支援方法として有効であった。

そこで、昨年度作成したクラブ活動で支援するためのマニュアルやツールを活用して他の学校でも実施で

きるよう支援していきたい。また、気になる子どもの早期発見、早期療育の重要性が叫ばれていることから、就学前の機関を対象にした事例研究を行い、早期からの支援体制の確立と支援を要する子どもへの適切な対応を自ら考え、実践し、問題解決できる力を身につけていけるようサポートをしていきたいと考える。

さらに、今年度支援対象地域の小学校に新設されるLD・ADHDを対象とした通級指導教室の運営や指導内容等についてともに考え協働することで、より有効な支援の場として確立し、今後の地域での支援の核となっていけるよう、サポートしていきたいと考えている。

相談支援においては、幼児児童生徒への個別的な支援についてのアドバイスばかりでなく、クラス全体でどう支援するのか、学校全体でどう支援していくのかという視点を持ってアドバイスを行い、地域における小・中学校等の校内支援体制の構築や教員等のスキルアップに繋げていけるよう、全ての特別支援教育巡回相談員が意思統一をして取り組んでいきたい。また、中学校や高等学校へは、積極的に広報活動を行い、教育相談に繋がるよう努め、就労及び進路相談においては、特別支援学校が持つノウハウを提供していきたい。

このように、地域からの要請に応じるだけでなく、支援の方法やシステムを各校にあわせて提案し、それぞれの学校で系統的に支援できる体制作りをサポートし、各校における支援体制の確立と地域のリーダーとなる指導者のスキルアップを目指していけるような支援を行っていきたいと考える。